

1 文の組み立て

考え方

1 2のように、助詞「こそ」がついて主語になることもありま  
す。3は重文です。4は文の語順が入れかわっています。「君  
の目から大つぶのなみだが、次から次へと落ちる。」というふ  
つうの語順に直すと、主語と述語をつかみやすいでしょう。

4 1とイは単文、2とウは重文、3とアは複文です。

答え

- 1 私の姉の将来の夢は幼いころからずっと同じだ。
  - 2 かれこそ私たちのチームの代表にふさわしい。
  - 3 父は母と早朝からゴルフに出かけ、ぼくは友人と遊ぶ。
  - 4 次から次へと落ちる、君の目から大つぶのなみだが。
  - 5 日曜日の午後、やわらかな自然の光が、私の部屋をやさしく包む。
- 2
- 1 (主語) ウ (述語) ケ / (主語) カ (述語) キ
  - 2 (主語) イ (述語) エ / (主語) オ (述語) ケ
  - 3 (主語) ア (述語) ウ / (主語) エ (述語) ク
- 3
- 1 ウ
  - 2 ア
  - 3 イ
- 4
- 1 イ
  - 2 ウ
  - 3 ア
- (主語) オ (述語) カ (順不同)

2

品詞

考え方

1 打ち消しの助動詞「ない」は「ぬ」に置きかえられます。ウ  
「終わらぬ」、オ「思いつかぬ」と言いかえることができますね。  
3 1「様態」を表す「そうだ」は動詞の連用形に接続するので、  
「完成する」を連用形「完成し」に直します。「伝聞」を表す「そ  
うだ」は終止形に接続するので、「完成する」を用います。

4 形容動詞の言い切りの形と「名詞+だ」の見分け方

・直前に「とても」を入れて意味が通る  
・「だ」を「な+名詞」に置きかえられる  
} 形容動詞

イ「とてもほがらかだ」「ほがらかな人」と置きかえられるの  
で「ほがらかだ」は形容動詞です。エ「とてもココアだ」「コ  
コアな味」はおかしいので、断定の助動詞の「だ」です。

5 「売れる」、5「あふれる」の「れる」は動詞の一部です。

答え

- 1 ウ・オ (順不同)
  - 2 イ
  - 3 1 明日には完成しそうだ。  
2 明日には完成するそうだ。
- 4
- 1 エ
- 5
- 1 エ
  - 2 ア
  - 3 ウ
  - 4 ×
  - 5 ×
  - 6 イ

Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさを体験しよう!



くわしくはこちら!

Z会の本



かっこいい小学生になろう

3

気持ちの変化を読み取る

考え方

1 美沙がおかれている状況じょうきょうを読み取ったうえで、ひゆ比喩の意味を考えていきましょう。美沙は「みんなが簡単にできる」色ぬりができないことを健二に指摘してきされ、みんなの視線を集めています。「火」には赤くて熱いイメージがあります。このような中で、体が「火」のようにほてっているのですから、これは美沙のはずかしい気持ちきもちが表れていると読み取れます。

2 「その調子じゃあ、日が暮れちまうよな」という健二の「いつものような乱暴な言い方」を耳にして、美沙は「健二はいつもそうだ」と思います。そこで思い出すのは「おこったように」久美のゴミぶくろをかっさらっていく健二の姿すがたでした。「今まで」の健二は、人の弱点を大声で指摘する乱暴な存在そんざいだったのです。ところが健二が「色のうすいところだけぬっていけば？」と提案したとき、ふと美沙は健二の優しやささに気づきます。ひよつとしたら今まででも不器用な自分や弱い人のことをかばってくれていたのかもしれない、と今までとちがう目で健二を見返してみたのです。美沙の心情の変化が読み取れる場面です。

答え

- 1 はずかしさで、体が熱くなったということ。
- 2 健二のことを乱暴な男の子だと思っていたが、実は優しい人なのかもしれない、という見方。

Z会 × ちびむすドリル

考える楽しさを体験しよう!



くわしくはこちら!

Z会の本



かっこいい小学生になろう